

鹿児島県立短期大学 履修科目の区分

1 文学科

短期大学の卒業所要単位は62単位であり、そのための最低履修単位の内訳は、日本語日本文学専攻では教養科目17単位、専門科目30単位であり、英語英文学専攻では教養科目15単位、専門科目33単位である。日本語日本文学専攻での、卒業所要単位から最低履修単位を引いた不足分の15単位は教養科目と専門科目でカバーすることになる。英語英文学専攻での不足分の14単位も同様である。

表 卒業のための最低履修単位表

専攻\区分	教養科目				専門科目	不足	合計
	人文・自然・社会・総合	外国語	スポーツ健康科目	情報			
日本語日本文学	8	4	3	2	30	15	62
英語英文学	8	2	3	2	33	14	62

文学科の専門科目に関しては、日本語日本文学専攻では57科目、英語英文学専攻では48科目がある。このうち、日本語日本文学専攻における必修科目は11科目(20単位)、選択必修科目は28科目(10単位)であり、英語英文学専攻における必修科目は16科目(24単位)、選択必修科目は20科目(9単位)である。

必修科目は、卒業研究のほか、両専攻の科目群の中核をなす概論科目および文学史等である。演習と講読科目は選択必修とし、卒業研究につながる系統だった教育ができるよう配慮している。

英語英文学専攻の必修科目数が多いのは、専攻の教育の根幹に英語運用能力の向上を据えているため、授業の方法が演習形態であるが、コミュニケーション科目群の「オーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、「LL演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」および英語学科目群の「英語表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を必修としていることによる。

選択必修科目に関して、日本語日本文学専攻では、演習と講読について科目群を横断して最低履修科目数を指定し、幅広い履修を義務づけている。特に講読科目については、文献を直接読むことを重視するという専攻の教育目標に基づき、日本語学、古代から近代まで各時代の日本文学、中国文学の中から、多様な作品、文献を読むことができるように配慮している。

教養科目のうち、文学科はスポーツ・健康科目および情報が必修である。日本語日本文学専攻は外国語の英語Ⅰ(1単位)と英語Ⅱ(1単位)が必修で、英語英文学専攻はドイツ語Ⅰ、Ⅱ、フランス語Ⅰ、Ⅱ、中国語Ⅰ、Ⅱから1言語2科目(2単位)が選択必修となっている。

2 生活科学科

生活科学科の2専攻で開設する専門科目数は食物栄養専攻が44科目75単位、生活科学専攻が41科目70単位で、食物栄養専攻が若干多い。卒業所要単位は62単位であり、教養科目から食物栄養専攻16単位、生活科学専攻17単位の修得が求められるので不足分46か45単位を専門教育科目等から履修修得する必要がある。

専門教育科目の履修科目の区分では、2専攻に大きな差はない。

表 専門科目の区分

専攻	必修科目数	単位数	選択科目数	単位数
食物栄養専攻	8科目	18単位	36科目	57単位
生活科学専攻	9科目	18単位	23科目	52単位

食物栄養専攻の必修科目の内訳は、上記「学科・専攻科の教育課程」に記したように、学科の概要を学ぶ学科共通科目の「生活科学概論」を始めそれぞれの学問分野の基礎となる、食品学、栄養学、栄養指導、給食管理、健康と運動科目である。このほか、その他の専門科目を選択科目としているが栄養士免許取得のために実質38科目が必修となっているが、これらの科目については系統だった教育ができるよう配慮している。

生活科学専攻の必修科目の内訳は、学科共通科目の「生活科学概論」に加え、学問分野の基礎となる「衣生活学」「住生活学」「生活化学」「生活デザイン学」の専攻の柱となる科目を必修とし、その他に選択科目を配している。

ただ、両専攻とも通常の教育課程に加えて食物栄養専攻では栄養士課程必修科目32科目54単位（うち6科目14単位が卒業必修と重複）が必修指定されており、生活科学専攻では教職課程で8科目（うち2科目4単位が卒業必修と重複する）が必修指定（以下、教職必修）されている。

また、二級建築士・木造建築士受験資格を得るために計13科目21単位（うち2科目3単位が卒業必修と重複）が必修指定（以下、建築士必修）となる。インテリアプランナー登録資格では卒業必修の重複2科目4単位を含み21単位以上の修得が必要となる。2専攻ともに、資格取得を専攻と学科の特徴としている現状から、これを直ちに過重と断定して指摘はできない。

表 資格取得に要する科目・単位数（ ）内は卒業必修との重複数

専攻	資格	科目数	単位数
食物栄養専攻	栄養士	32（6）科目	54（14）単位
生活科学専攻	教職	8（2）科目	15（4）単位

3 第一部商経学科

卒業所要単位 62 単位のうち、教養科目は 17 単位以上の取得が卒業要件である。具体的には外国語が 4 単位で、うち英語の計 2 単位が必修、スポーツ健康科目が 3 単位で全て必修（3 科目）、情報が 2 単位で全て必修（2 科目）、人文・社会・自然・総合の 4 分野のうち 2 分野以上から 8 単位（必修科目はなし）となっている。

専門科目では経済専攻、経営情報専攻ともに専門基礎科目である「経済学」および「経営学総論」が必修科目であり、1 年次に履修するように指導を行っている。専門専攻科目である演習（ゼミ）も必修科目であり、「基礎演習」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」の 4 科目がこれにあたる。

表 履修科目の区分の単位数

専攻\区分	教養科目				専門科目	
	人文・自然・ 社会・総合	外国語	スポーツ健康	情報	専門基礎	専攻専門
経済専攻	8	4	3	2	4	8
経営情報専攻	8	4	3	2	4	8

上記の合計はいずれの専攻とも 29 単位であり、卒業所要単位数 62 単位に不足する 33 単位は、教養科目および専門科目から自由に選択して「補う」ことになる。

この選択科目については、同時時間帯に基礎的な科目と応用的な科目を同時開講し、1 年次に履修する科目と 2 年次に履修する科目を分けている。

4 第二部商経学科

卒業所要単位 62 単位のうち、教養科目は 14 単位以上の取得が卒業要件である。具体的には外国語が 2 単位で、英語と中国語のどちらかの選択必修である。スポーツ健康科目が 3 単位で全て必修（3 科目）、情報が 2 単位で全て必修（2 科目）、人文・社会・自然・総合の 4 分野のうち 2 分野以上から 8 単位（必修科目はなし）となっている。

専門専攻科目である演習（ゼミ）が必修であり、「基礎演習」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」の 4 科目がこれにあたる。また、専門基礎科目の「経済学」や「経営学総論」は履修するように指導している。

表 履修科目の区分の単位数

教養科目				専門科目	
人文・社会・自然・総合	外国語	スポーツ健康	情報	専門基礎	専攻専門
8	2	2	2	0	8